

八雲立つ出雲から「電波の雲」クラウドで 悠久の平和を生み出す「和の文化」の創造

小松電機産業 人間自然科学研究所 代表 小松昭夫



と抱負を語る。

人類の戦争を終結させる活動

1977年に初の海外旅行先の韓国で、乗車したタクシードラブルに巻き込まれたのを契機に、小松氏は日韓の歴史を研究。そこから「日本列島と朝鮮半島に、人類の歴史上初めて、『和の文化』を生み出す『平和の事業化』を必要とする時代がくる」との念が生まれ、88年に松江の若手経営者らで「知革塾」を立ち上げ、発展させて94年にシンク&ドゥタンク「人間自然科学研究所」(本部・松江市)を設立。「中庸」「和譲」「和」を座右の銘として、中国、韓国、東南アジア、ヨーロッパ、米国、露国の戦争記念館を訪問し、日本人として献花寄付をしてきた。

2013年、オランダ・ハーグ市の平和宮100年記念式典で、小松氏はビル・ゲイツ氏などとともに「平和事業家、世界の20人」に選ばれた。翌年6月オーストリアのウィーン

年間売上高30億円台の中堅企業ながら、1973年の創業から独創的製品を世におくり、高収益会社で成長させた。30年前に開発した『シートシャッター門番』と、15年前に全国展開を始め、今と言うクラウドコンピューティングを世界で初めて

水の遠隔管理に用いた、総合水管理システム『やくも水神』である。日本企業が不得意とする「社会インフラの問題点」が世の中に顕在化する前にヒト・モノ・カネの経営資源を投入し、その製品を産業化し新しい市場を確立するマーケット創造型の経営者である。

年間20万回以上の開閉動作ができる『門番』は販売当初から国内約70%のシェアをもつヒット製品となり、現在は国内外に約15万台が設置され、大手シャッターメーカーがこぞって市場参入した。

NTTドコモのFOMA網を用いたクラウドシステムの『やくも水神』は、平成の大合併による上下水道

施設の広域化により散在する各施設を、タブレットやスマホによりリアルタイムで管理・制御でき、採用自治体にとってメーカーや大学などと協業の機会が増えることから急速に普及が進み、全国380自治体・8400施設で採用されている。

「グーグルがクラウドを提唱し始めた6年前に、当時沖縄サミットで森首相が発表したe-Japan構想の先駆けとして、出雲からデータセンター方式による全国展開を始めました。03年にドコモの代々木ビル内にもデータセンターを開設、松江発のプログラミング言語RubyでOSを刷新したことで全国の自治体に導入が進みました。つまり、クラウドやIoT、いわゆる『第4次産業革命』は、『八雲立つ出雲』から始まりました。大手企業と協業しながら、新しい価値を創造するジャパンモデルとして、『水の情報から平和のプラットフォームが生まれる』考え方が広がっていくことを熱望しています」

で開催された、女性初のノーベル平和賞受賞者で「武器を捨てよ!」を著したB・V・ズットナー女史没後100周年記念式典で、「8月15日を終戦記念日と定めた日本には、人類の戦争を終結させる使命がある」と世界に向け持論を展開、喝采を浴びた。また、論理学に精通した芸術家で、カーネギー財団の発注でズットナー像を制作したインゲリッパ・ロレマ女史との縁が生まれ、小松氏は2つのズットナー像制作をロレマ氏に依頼。ロレマ氏は小松氏の招待を受け昨年11月に、韓国の安重根義士記念館、板門店を訪れてから来日、松江市で開催したシンポジウム「八雲立つ出雲から陽が昇る」で600人を前に講演した。同社ホームページに動画とともに詳しく記載されている。3体目の像は、日本の銅像産地の富山県高岡市で制作が進められている。

社は社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう、経営理念「おもしろ、おかしく、たのしく、ゆかいに」、行動指針「三方よし後利」を定め、これを判断基準とし、小松氏は2つの開発製品と、平和事業として四半世紀に及ぶ研究所の活動実績を生かし、近隣諸国との歴史問題を正面から受け止め日本人・地球人として平和や環境・健康を三位一体とした究極の事業コンセプトを明確に語った。